別紙様式１

令和２年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告書

（令和３年３月）

報告者氏名・所属	安井友康・札幌校
研究プロジェクトの名称	効果的な個別の支援計画作成法の開発と支援力の育成 ―実態把握方法の開発と情報支援―
プロジェクト担当者 （氏名・所属・職） ※代表者に●を付すこと	青山眞二（札幌校・教授） 三浦　哲（札幌校・教授） ●安井友康（札幌校・教授） 齊藤真善（札幌校・准教授） 千賀　愛（札幌校・准教授） 池田千紗（札幌校・准教授） 萩原　拓(旭川校・教授） 片桐正敏(旭川校・准教授） 蔦森英史(旭川校・准教授） 五十嵐靖夫（函館校・教授） 北村博幸（函館校・教授） 細谷一博（函館校・教授） 小野川文子(釧路校・准教授） 小渕隆司(釧路校・准教授） 戸田竜也(釧路校・准教授） 木戸口正宏(釧路校・講師） 大山祐太(岩見沢校・准教授） 小野寺基史（教職大学院・教授） 太田千佳子ほか附属学校教員 吉呑正美ほか附属札幌小中学校特別支援学級教員

研究プロジェクトの概要等（期間全体）

特別な教育的支援を有する児童生徒については、様々な発達課題に応じた支援の手立てを明らかにすることが求められる。そのためには地域の学校現場で活用できるアセスメントなの方法や支援方法に関する情報が求められる。一方北海道の広域性ゆえ情報や支援力の地域格差の問題が大きいことが指摘されている。より実効性の高い支援方法の開発とその普及が強く求められている。本プロジェクトは、これらの地域ニーズに対し、全キャンパスの特別支援教育担当者と附属学校、附属小中学校特別支援学級と連携による評価法の開発を行うとともにIT機器を活用した情報提供ならびに実際の支援を展開することでその有効性を検証する。

進捗度	2	←番号を記入　１.順調に進んでいる　２.ほぼ順調に進んでいる ３.やや遅れ気味　　４.遅れ気味 （進捗度が３もしくは４の場合、その理由や問題点等を記入願います。）

研究実績の概要（今年度）

(1) 情報サーバへの情報の蓄積

・本学の特別支援教育に関する情報配信サイト「ほくとくネット」の情報更新を実施した(207786アクセス：2021/3/24現在)。

・本プロジェクトに関する活動や成果の公開、情報提供などを随時行った。
・これまで構築してきた「発達障害の理解・研修用の音声・動画教材」について、1年間で6000以上のアクセスがあるなど、研修に活用されている様子がうかがわれた（2021/3/24現在：7313アクセス）。

(2)教員向け研修プログラムの実施

・今年度はコロナ禍であるため，オンライン（Zoom）を活用した研修会「特別支援教育における心理的・教育的研究の動向」と題したシンポジウムを開催した。当日は，道南地域だけでなく，全道各地や東北地域からも出席者があり，総勢 31 名の参加者があった。話題提供として，本学の大学院生による最新の研究報告に加えて，北海道教育大学附属特別支援学校が取り組んでいる研究事例についても報告を行った。さらにそれぞれの話題提供に加えて函館校の教員によるコメントも併せて実施し，発表した研究領域の今後の方向性や学術的な意義について解説をした。（函館校/附属特別支援学校）
http://hokutoku.net/jogvxxzol-173/#
[添付資料 1]
・地域の若手教員を対象に「現職教員研修」を実施した。今年度は、Zoomによるオンラインでの実施とし、小～高等部の授業を見たのちに、ティームティーチングの実際について研修を行った。渡島管内の特別支援学級担任及び道内特別支援学校の教員が１３名参加した。（附属特別支援学校）**[添付資料 2]**
・「新型コロナウイルス感染症と障害のある子どもの生活」を考えるシンポジウムを実施した（釧路校）
http://hokutoku.net/jo27azhgh-770/#_770

(3)附属との連携による人材育成プログラム

①特別支援学校初任段階研修（附属特別支援学校）
中標津支援学校の初任段階研修の一つを本校職員が講義を行い実施した。各校をZoomでつなぎ、講義を行った後、各校の実践について交流するなどしながら、協議を行った。
②地域住民向け障がい理解動画配信（附属特別支援学校）
地域の障がい理解を広めるための取組を開始した。YouTubeに障がい理解及び本校の取組を配信し、地域の住民に案内を行った。
③授業動画の配信を通した学びの支援と研究（附属札幌小中学校ふじのめ学級）
2020年3-6月にふじのめ学級が配信した各種の生徒向け授業動画について、大学、教職大学院との連携のもと北海道特別支援教育学会において報告するとともに、検討を行った。**[添付資料 3、7]**
④特別支援学級の機能を生かした学生研修プログラム（ふじのめ学級）
附属札幌小中学校ふじのめ学級において、本プロジェクトとの共同で制作した研究紀要「一人一人の『わかる』」を引き出す授業づくり〈第一年次〉深い子供理解からはじめる支援方法」を活用し、特別支援教育専攻（4年生）を対象とした研修プログラムを実施した。**[添付資料 4、7]**

(4) 心理アセスメントの実装プロジェクト

・東川町内の教職員向けに，読み書きスクリーニング検査の意義と内容を理解できる動画を作成し，東川町教育委員会を通して配布を行った。東川町校長会において，読み書きスクリーニング検査の成果について発表を行った。東川町において就学前年長児に1回，1年生に年3回の読み書きスクリーニング検査を行った。各検査のフィードバックを学校，家庭双方に書面を通して行った。
・旭川市内公立中学校において，子どもの情緒や行動面について教師が回答するSDQ

（Strength and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート）を実施し，個別の教育相談等に活用する実践を行った（前期と後期で実施）。
・発達障害のある児童生徒に対して，知能検査および読み書きなどの学習能力検査，適応行動の検査，および感覚処理の検査など「包括アセスメント」を実施し，保護者および関係機関（医療，学校）へのフィードバック，コンサルテーションを実施した（今年度は新型コロナウイルスの関係で16名へアセスメントおよび教員へのコンサルテーション，フィードバックを実施）。
・旭川市内公立中学校において，子どもの情緒や行動面について教師が回答するSDQ（Strength and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート）を実施し，個別の教育相談等に活用する実践を行った（前期と後期で実施）。
・発達障害のある児童生徒に対して，知能検査および読み書きなどの学習能力検査，適応行動の検査，および感覚処理の検査など「包括アセスメント」を実施し，保護者および関係機関（医療，学校）へのフィードバック，コンサルテーションを実施した（今年度は新型コロナウイルスの関係で10月末までで９名へアセスメントを実施）。

(5)そのほか
・「休校・生活制限等による障害児とその家族の生活困難・ニーズ調査」を実施し報告した(釧路校[**添付資料8，9**])
http://hokutoku.net/joo9mb3c1-770/#_770

教育現場や地域で活用可能な成果等

・上記で示した取り組み内容やその成果については、教育現場や地域で活用可能である。

研究成果の公表実績（今年度）

【著書】
・発達が気になる子の学校生活における合理的配慮、池田千紗・鴨下賢一・荻野圭司・小玉武志・髙橋知義・戸塚香代子、中央法規出版、2020

【学術論文】（投稿中も含む）
・片桐正敏・蔦森英史・萩原拓．相談ケースから示された自閉症スペクトラム障害及び学習障害の疑いのある子どもの知的機能と感覚特性、適応行動の特徴． 北海道特別支援教育研究，11-18，2020・14・1，査読あり
・片桐正敏・福本那奈・長谷川茉奈・石川由美子．自立活動における「絵本の読みあい遊び」の効果―小学校知的障害特別支援学級と情緒障害特別支援学級での実践―． 北海道教育大学紀要（教育科学編），2021・71・2.
・池田千紗・鴨下賢一、発達をうながす 生活動作の介助のしかた ： ハンドリング 整容編(第1回)連載にあたって/水を出す。地域リハビリテーション,234-237,2020、15(4),査読無し
・池田千紗・鴨下賢一、発達をうながす 生活動作の介助のしかた ： ハンドリング ハンドリング 整容編(第 2 回)手を洗う/顔を洗う。地域リハビリテーション,348-353,2020、15(5),査読無し
・池田千紗・鴨下賢一、発達をうながす 生活動作の介助のしかた ： ハンドリング整容編(最終回)歯磨き/うがい。地域リハビリテーション,434-439,2021、15(6),査読無し
・伊藤明莉・池田千紗・齊藤真善、筆順の提示方法による眼球運動と視線の関連について―発達障害児１事例に対する支援方法の検討―。北海道特別支援教育研究、1-9、2020、14(1)、査読あり

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

＜学会発表＞

・日本心理学会第 84 回大会，2020 年 9 月 8 日-11 月 2 日，オンライン開催，蔦森英史，日本の小学 1 年生における単音音読流暢性を就学前に予測可能か？（ポスター発表），学会参加者数例年 3000 名程度.
・日本L D学会第29回大会，2020年10月10日-11日，オンライン開催，亀山麻子・蔦森英史，小学1年生の平仮名一文字読みに対する小集団指導が及ぼす効果の検討-鳥取大学方式「解読指導」と聴覚法による指導を活用して-（ポスター発表），学会参加者数1日800名程度
・日本アダプテッド体育・スポーツ学会第25回大会、2020.12.5、オンライン、年中幼児における前跳びの連続跳び習得段階と運動属性の関連の検討、雨宮かさね・池田千紗・安井友康・小野泰聖
・日本アダプテッド体育・スポーツ学会第25回大会、2020.12.5、オンライン、安井友康・千賀愛・池田千紗・小野泰聖・高橋愛美、COVIT-19下の遠隔授業におけるユニバーサルなアダプテッド身体活動授業の試み、
・第29回日本LD学会、2020.10.10-11、オンライン、後藤 亜矢子・関 あゆみ・山下 公司・池田 千紗・渡邊 隆史、計算に困難のある児童の背景にある認知能力の検討－数の基礎知識の成績を説明する認知能力とは－
・第29回日本LD学会、2020.10.10-11、オンライン、小野 泰聖・池田 千紗・後藤 亜矢子、多職種による事例検討会を中心とした研修会のあり方 ～真の連携を目指して～
・第29回日本LD学会、2020.10.10-11、オンライン、山下公司・池田千紗・村井めぐみ、脳性まひ児の算数文章題の解き方とインフォーマル算数・認知機能の関連 ―３事例の個別検討を通して―
・日本特殊教育学会第58回大会、2020.9.19-10.20、オンライン、池田千紗、算数の文章題解決過程と認知機能および協調運動能力の関連－定型発達児3～6年生の発達的変化に着目して－

＜シンポジウム＞

・特別支援教育における心理的・教育的研究の動向、特別支援教育プロジェクト及び北海道特別支援教育学会道南支部研修会、シンポジウム、2021､2,11
・附属札幌小中学校ふじのめ学級の取り組み、北海道特別支援教育学会、オンライン・シンポジウム、2021,3,25 **[添付資料3]**
・オンライン運動プログラムの開発、北海道特別支援教育学会、オンライン・シンポジウム、2021,3,25 **[添付資料5，6]**
・「新型コロナウイルス感染症と障害のある子どもの生活」を考えるシンポジウム（釧路校）

＜研修会・セミナー＞

・札幌市特別支援教育コーディネーター養成研修会、2020.9.15、ちえりあホール、100 名
・民間児童育成会指導員研修会、2020.11.4、かでる 2.7 大会議室、100 名
・札幌市発達障がい支援研究会オンライン冬期研修会、2021.2.27、オンライン、22名
・子labo、2020.9-2021.2（全5回）、教育大サテライト、各回10名程度
（子どもの療育、指導に携わる教員やセラピストによる事例検討会）
・北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校、事例検討会、2021.3.5、オンライン、約15名
・札幌市立平岡南小学校、事例検討会、2020.11-2021.2（全4回）、平岡南小学校特別支援学級、各回6名
・札幌市立清田小学校、事例検討会、2020.11-12（全3回）、清田小学校まなびの教室、各回2名
・札幌市立南月寒小学校、事例検討会、2020.9.30、南月寒小学校まなびの教室、4名

・札幌市立幌北小学校、事例検討会、2020.3-10、幌北小学校まなびの教室、3名
・東川町読み書きプロジェクト（東川町校長会）、2020年7月3日、東川町改善センター、参加者8名.
・研究動画配信の実施（研究内容、講演会、授業） ７月、１２月(附属特別支援学校)

【テキスト、報告書、研修資料等】

・オンライン運動プログラムの開発
・附属札幌小中学校ふじのめ学級「一人一人の『わかる』」を引き出す授業づくり<第一年次>深い子供理解からはじめる支援方法」、研究紀要第50集、2020(下記ダウンロード可能なドキュメント参照)

添付資料	1)道南支部企画(2020) (1).pdf 2)令和２年度現職教員研修会チラシ（第２次案内）.pdf 3)ふじのめ学級小中学校の臨時休校中の取組(シンポ資料).pdf 4) R2教職実践演習(ふじのめ).pdf 5)オンライン運動プログラムの開発 (1).pdf 6)運動プロジェクト資料 (1).pdf 7)令和2年度プロジェクト報告書ふじのめ.pdf
ダウンロード可能なドキュメント	・スポカル実行委員会「出来ないから出来るへ！親子で学べるスポーツコーチングガイド」インターネットコンテンツ「運動能力の土台作りと発達性協調運動障害について」監修（http://sports-guide.jp/shogai） ・北海道教育大学附属札幌小・中特別支援学級（ふじのめ学級）研究紀要　一人一人の「分かる」を引き出す授業づくり＜第1年次＞～深い子ども理解からはじめる支援方法～,第50集, 令和2年度. https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00008100/00008110/fujinome50.pdf ・新型コロナウイルス感染症に関わる休校・生活制限等による障害児とその家族の生活困難・ニーズ調査結果報告 ・http://hokutoku.net/?action=common_download_main&upload_id=3131 ・「新型コロナウイルス感染症と障害のある子どもの生活」を考えるシンポジウム hokutoku.net/?action=common_download_main&upload_id=3133
関連URL	http://hokutoku.net/
問い合わせ先	氏　名：安井友康 電　話：011-778-0433 E-mail：yasui.tomoyasu@s.hokkyodai.ac.jp